金融と日本銀行

名前

問1　貨幣の働きに関する具体的な場面を想定したとき、「交換手段」としての機能が最も直接的に表れている説明として適切なものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 将来の大きな買い物に備えて、毎月の給与の一部を銀行口座に預金して蓄える。
2. スーパーマーケットにおいて、商品の棚に「150円」と書かれた値札が付いているのを確認する。
3. 国や地方自治体に対して、期限までに定められた金額の税金を納付する。
4. 文房具店において、代金として100円硬貨を支払い、ノート1冊を受け取る。

問2　資金の流れにおいて、銀行などの金融機関が預金として集めた資金を企業に貸し出す「間接金融」と比較したとき、株式の発行などによる「直接金融」の説明として最も適切なものはどれか。（2023年 千葉県公立入試 類似）

1. 中央銀行が市中銀行と国債を売買することで、世の中に出回る通貨量を調節する仕組みである。
2. 政府が税金として集めた資金を、公共事業や社会保障の財源として支出する仕組みである。
3. 家計が銀行に預けた預金を、銀行が自らの判断で企業に融資する仕組みである。
4. 家計が証券会社などを通じて、企業が発行する株式や債券を購入して資金を供給する仕組みである。

問3　日本の実質経済成長率の推移をたどると、2008年から2009年にかけて数値が急落し、2009年度にマイナス5.7%という極めて低い数値を記録した時期があります。この要因となった世界的な経済危機の名称として正しいものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 世界金融危機（リーマン・ショック）
2. 第1次石油危機（オイル・ショック）
3. プラザ合意後の円高不況
4. アジア通貨危機

問4　2010年以降、日本銀行は世の中に流通する通貨の量を急激に増やす政策を続けています。このように通貨の供給量を増やすことで、経済にどのような変化をもたらそうとしているか、その目的として最も適切なものを選択してください。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 物価が上がり続けるインフレーションを抑え、物価を下落させることで国民の生活を安定させること
2. 物価が下がり続けるデフレーションから脱却し、物価を上昇させることで景気を回復させること
3. 市場の通貨量を減らすことで円の価値を高め、輸入品の価格を大幅に引き下げること
4. 企業の利益を減らして労働者の賃金を強制的に引き上げ、所得の格差を解消すること

問5　資金の貸し借りが行われる金融市場において、元金に対する利子の割合を示す言葉として正しいものはどれですか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 為替相場
2. 自己資本比率
3. 物価上昇率
4. 金利

問6　個人などの資金の出し手が銀行などの金融機関に預金を行い、その金融機関が企業などの資金の借り手に貸し出しを行う金融の仕組みを何といいますか。（2017年 岩手県公立入試 類似）

1. 直接金融
2. 消費者金融
3. 公定歩合
4. 間接金融

問7　景気が後退している局面において、日本銀行が市場の通貨量を調整して景気の回復を図る「買いオペレーション」の仕組みとして、最も適切な説明はどれですか。（2021年 福岡県公立入試 類似）

1. 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を減らし、金利を上げる。
2. 日本銀行が保有する国債などを市中の金融機関に売却することで、市場に出回る通貨の量を減らし、金利を上げる。
3. 日本銀行が保有する国債などを市中の金融機関に売却することで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げる。
4. 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げる。

問8　日本銀行の業務に関する説明として、民間の銀行（普通銀行）の業務とは異なる、中央銀行としての正しい役割はどれですか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 一般の銀行を対象として、資金の貸し出しや預金の受け入れを行う。
2. 企業間の不当な価格操作が行われないよう、市場を監視する。
3. 個人の預金者に対して、預けられた金額に応じた利息を支払う。
4. 企業の将来性を審査し、新しい事業を始めるための資金を直接融資する。

問9　日本銀行の業務に関する説明として、民間の金融機関（普通銀行など）と比較した際の特徴として正しいものはどれですか。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 利潤を最大化することを目的として、一般の家計に対してクレジットカードの発行を行う。
2. 国の唯一の「発券銀行」として、金貨や銀貨のみを鋳造して発行する。
3. 一般の個人や企業との間では、預金の預け入れや貸し出しなどの取引を行わない。
4. 預金者から預かった資金を元手に、株式市場での投資を主な収益源としている。

問10　日本銀行が、景気の安定を図るために公開市場操作などの手段を用いて、世の中の通貨量や金利を調整する政策の名称を何といいますか。（2020年 愛媛県公立入試 類似）

1. 貿易政策
2. 財政政策
3. 産業政策
4. 金融政策

問11　ある期間において為替相場が1ドル＝138円から1ドル＝148円へと変動しました。このとき、海外から80ドルの商品を輸入して円で支払う場合、支払額はどのように変化するか説明として正しいものを選びなさい。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

1. 円の価値が下がった（円安）ため、支払額は以前より800円増加する。
2. 円の価値が下がった（円安）ため、支払額は以前より800円減少する。
3. 円の価値が上がった（円高）ため、支払額は以前より800円増加する。
4. 円の価値が上がった（円高）ため、支払額は以前より800円減少する。

問12　不景気の際に日本銀行が「買いオペレーション」を行う目的と、その結果として期待される経済への影響についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）

1. 円安を誘導することで輸出企業の利益を増やし、国内の雇用環境を改善する
2. 国債の発行額を減らすことで国の借金を削減し、将来の増税の可能性を低くする
3. 世の中に出回る資金の量を減らし、物価の上昇を抑えることで、消費者の生活を安定させる
4. 世の中に出回る資金の量を増やし、企業が銀行から資金を借りやすくして、経済活動を刺激する

問13　銀行は家計から預金として集めた資金を、資金を必要とする企業などに貸し出しています。このとき、銀行の主な収益源となる「利ざや」が発生する仕組みについて、正しく説明しているものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 預金金利と貸出金利を同等に設定し、預金の総額が増えることによって利益を得る。
2. 銀行が貸出先から受け取る貸出金利を、預金者に支払う預金金利よりも高く設定する。
3. 中央銀行から支払われる補助金を、預金者に利子として分配した残りを収益とする。
4. 銀行が預金者に支払う預金金利を、貸出先から受け取る貸出金利よりも高く設定する。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 文房具店において、代金として100円硬貨を支払い、ノート1冊を受け取る。	貨幣を介して特定の財（この場合はノート）を入手する行為は、貨幣が交換の媒介となっていることを示しており、これが「交換手段」の典型的な例です。値札で価格を確認するのは「価値の尺度（モノの価値を測る基準）」、預金は「価値の保存（富を蓄える）」という別の機能を説明したものです。
問2	答え 4 家計が証券会社などを通じて、企業が発行する株式や債券を購入して資金を供給する仕組みである。	直接金融は、貸し手である家計などが自らの判断と責任で、証券市場において株式や債券を購入し、借り手である企業に資金を渡す点に特徴がある。これに対し、銀行が間に入ってリスクを負いながら資金を仲介するのは間接金融である。
問3	答え 1 世界金融危機（リーマン・ショック）	2008年に発生した世界金融危機は、2009年度の日本経済に深刻な打撃を与え、大幅なマイナス成長をもたらしました。これは1974年度に第1次石油危機の後に記録した戦後初のマイナス成長を大きく下回る落ち込みでした。このように、グローバル化した現代の経済では、他国で発生した金融不安が短期間のうちに日本へ波及する仕組みになっています。
問4	答え 2 物価が下がり続けるデフレーションから脱却し、物価を上昇させることで景気を回復させること	日本銀行が世の中に供給する通貨の量（マネタリーベース）を増やすと、民間銀行が企業や個人に貸し出せる資金が増え、経済活動が刺激されます。この政策は、物価が継続的に下落して景気が停滞する「デフレーション」という状態から抜け出すことを最大の目的としています。通貨供給量を増やして金利を下げることで、消費や投資を促し、物価を適度に上昇させるサイクルを作ろうとしています。
問5	答え 4 金利	借りたお金（元金）に対して、どの程度の割合で利子を支払うかを数値で表したものが金利です。一般的に「利回り」や「利率」とも呼ばれ、景気の状況や日本銀行の政策などによって変動します。金利が高くなると借り手の負担が増え、低くなると借りやすくなるため、経済活動に大きな影響を与えます。
問6	答え 4 間接金融	資金の出し手と借り手の間に銀行などの金融機関が介在する仕組みを間接金融と呼びます。個人は銀行に預金することで利子を受け取り、銀行はその預金を原資として企業へ貸し出しを行い、企業から利子を受け取ります。これに対し、企業が株式や債券を発行して投資家から直接資金を調達することを直接金融といいます。
問7	答え 4 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げる。	不景気の際、日本銀行は世の中のお金の循環を促すために、民間銀行が保有する国債を買い取ります。これにより、民間銀行が自由に動かせる資金（通貨供給量）が増加します。市場にお金が余る状態になると、お金を借りる際の価格である「金利（利子）」が低下し、企業や個人がお金を借りやすい環境が整えられます。
問8	答え 1 一般の銀行を対象として、資金の貸し出しや預金の受け入れを行う。	日本銀行は、私たち個人や一般の企業が直接口座を作って取引をすることはできません。日本銀行は民間の金融機関との間で資金をやり取りするため、「銀行の銀行」と呼ばれます。個人の預金に対する利息の支払いや一般企業への融資は、民間の普通銀行が行う業務です。また、価格操作の監視は公正取引委員会が担当しています。
問9	答え 3 一般の個人や企業との間では、預金の預け入れや貸し出しなどの取引を行わない。	日本銀行は「中央銀行」という特別な立場にあり、私たち個人（家計）や一般の企業が口座を作ったり、直接お金を借りたりすることはできません。日本銀行の取引相手は、主に政府と民間の金融機関に限定されています。また、日本銀行は日本銀行券（紙幣）を発行しますが、硬貨（貨幣）については政府が発行し、日本銀行が窓口となって世に送り出しています。
問10	答え 4 金融政策	中央銀行である日本銀行が、景気や物価の安定を目的として、国債の売買などを通じて世の中の通貨量をコントロールすることを金融政策と呼びます。主な手法は公開市場操作です。政府が行う増減税や公共投資などの経済対策は財政政策と呼ばれ、これらは「景気の調整」という目的は共通していますが、実施する主体と手段が異なります。
問11	答え 1 円の価値が下がった（円安）ため、支払額は以前より800円増加する。	1ドルあたりの価格が138円から148円になることは、1ドルの商品を買うのに必要な円が10円増えたことを示しており、これを円安と呼びます。80ドルの商品を輸入する場合、以前は「138円 × 80ドル = 11,040円」の支払いでしたが、変動後は「148円 × 80ドル = 11,840円」となります。この差額を計算すると「11,840 − 11,040 = 800円」となり、支払額が800円増加したことがわかります。
問12	答え 4 世の中に出回る資金の量を増やし、企業が銀行から資金を借りやすくして、経済活動を刺激する	買いオペレーションによって日本銀行から民間銀行へ資金が供給されると、銀行が貸し出しに回せる資金に余裕が生まれます。その結果、企業は投資のための資金を借りやすくなり、生産活動の拡大や雇用の創出が期待されます。このように、日本銀行が市場のお金の量を調節して景気の安定を図る制度を公開市場操作と呼びます。
問13	答え 2 銀行が貸出先から受け取る貸出金利を、預金者に支払う預金金利よりも高く設定する。	銀行は、資金が余っている家計などから「預金」を受け取り、その資金を必要としている企業などに「貸し出し」を行う金融仲介の役割を担っています。銀行の収益の柱は、貸し出した相手から受け取る利子（貸出金利）と、預金者に支払う利子（預金金利）の差額です。この差額を「利ざや」と呼び、銀行が安定して経営を行うためには、受け取る利子が支払う利子を上回っている必要があります。